



## ミュンヘン便り ～Absatz (アップザッツ)～

「整理番号xxx、出願番号yyy、以下の文章を記述して下さい。」

事務所では今日もボイスレコーダーを握ったP氏の声が、P氏の個室から朗々と廊下にかけて流れています。向こう三軒両隣の部屋の住人達は、P氏の気分を傷つけないようにそっと自室のドアを閉めます。P氏は気づかずに朗々と続けます。

「親愛なるMr. Z、2011年11月15日付貴信を拝受しました。」「Absatz (アップザッツ)」  
「ご指示に従い、2011年11月29日付でEPOからの拒絶理由通知に対する応答書を提出いたしました。」「Absatz (アップザッツ)」  
「しかし、応答書の中で……のように変更しています。その理由は……です。」「Absatz (アップザッツ)」

ここでP氏は今までの文章を最大音量で再

生して自らの声に聞き入った後、さらに続けます。

「今後の対応策としては、……や、……が考えられます。我々は、……をお勧めします。その理由は……です。」「Absatz (アップザッツ)」

いったいP氏は何をしているのでしょうか。特許業界に長くいらっしゃる方のご存じでしょう。ディクテーションです。ディクテーションとは、文章を読み上げて録音し、録音した文章を他の人にタイプ打ちしていただくことで書類を作成する仕事スタイルです。これには、書類の作成速度が格段に速く、疲れにくいと言う利点があります。読み上げる際に周囲に音が聞こえるので、仕事を個室でする慣習がない日本では最近ではあまり見かけませんが、ドイツの弁理士のほとんどはディクテーションによりほぼ全ての書類を作成します。明細書、意見書、手紙、異議申立書、鑑定書などほとんどありとあらゆる書類がディクテーションの対象です。唯一の例外は特許請求の範囲と言っても過言ではありません。それほどに、ディクテーションは一般的な仕事スタイルです。

もう一つ、日本ではあまり見かけないけれ



どもドイツの弁理士が大好きなのが、スピーカーフォンです。電話中に受話器を手で持たずに、音声を電話機のスピーカーから出力させるのです。これを最大音量で実行すると周囲にはかなり音の被害が出ますので、日本では実行が難しいと思われます。個室で仕事をしているドイツでも、音量を最大にすると周りの人たちは一斉に自室のドアを閉めますし、それでも足りない場合には話している人の部屋のドアを他の人がそっと閉めたりします。前述のP氏は最大音量でスピーカーフォンを使うので、彼のドアは頻繁に他の人によってそっと閉じられます。

さて、再び話をディクテーションに戻しましょう。1997年に大阪の事務所に入所した当時、私の席は所長であるO氏の隣でした。O氏は常に静かに独り言をつぶやいていましたが、尊敬するO氏が独り言を言おうが歌を歌おうが気にすることなく仕事に集中しておりました。数年後、私はいかに早く明細書を仕上げるかという問題を改善しようとして事務所内の先輩達に相談したとき、O氏はディクテーションという私の知らなかった仕事スタイルを勧めてくれました。そのとき私は初めて、O氏が独り言を言っていたのではなく、ディクテーションをしていたという事実を知ったのです。

ディクテーションでは「、」や「。」なども全て音声で「てん」、「まる」と言わなくてはなりません。従って「てん」や「まる」は頻繁にディクテーションに出てくることになります。私の部屋は冒頭のP氏の真向かいであり、ドイツで仕事をし始めた頃最も頻繁に耳にしたドイツ語はドアを開けたまま行われるP氏のディクテーションでした。その中で一日100回以上は繰り返されているであろうと思われる言葉「Absatz」は、ドイツ生活の中で最初に覚えたドイツ語単語です。この

「Absatz」、何だと思いませんか？

「Absatz」にはこんな用法もあります。ある日、友人がいつもより背が高いことに気づき、「今日は背が高いね」と言った私にその友人は言いました。「今日はAbsatzが高いのよ。」

さらにはこんな用法も。「(歌手の)ボン・ジョヴィのコンサートではチケットのAbsatzがとっても良かった。」ちなみに写真はミュンヘン、オリンピックスタジアムでのボン・ジョヴィのコンサートです。

さあ、「Absatz」の意味、お分かりでしょうか。実は、ディクテーションに出てくる「Absatz」、高い「Absatz」、チケットの「Absatz」はそれぞれ意味が全く違うのです。ディクテーションに出てくる「Absatz」は“改行”を意味します。ところが、高い「Absatz」では“靴のかかと”を、チケットの「Absatz」では“売れ行き”を、それぞれ意味します。後者の2つ、“改行”からはちょっと想像しがたい意味ではありませんか？ いや～、外国語は奥が深いですね。

## 筆者紹介

### 稲積 朋子 (いなづみ ともこ)

平成6年弁理士試験合格。現在、新樹グローバル・アイビー特許業務法人及びGIP Europe Corp.所属。  
1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe (GIPグループミュンヘンオフィス) 設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。  
趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。